

# 豆腐100万丁贈る

## ギアリンクス 第1便、中津川を出発

豆腐を載せた車の前で被災地支援への思いを高める中田智洋社長（左から3人目）や豊歳直之パラグアイ駐日特命全権大使（同4人目）ら。中津川市千旦林、ちこり村



緊急時の食糧確保と南米日本人移民農家の支援を目的とする「ギアリンクス」（美濃加茂市加茂野町、中田智洋社長）は、パラグアイの日系農業者の協力で東日本大震災の被災者に豆腐100万丁を

贈る。14日には第1便が中津川市を出発。3500丁を載せた車が宮城県気仙沼市や岩手県釜石市に向かった。原料の大豆100トは、南米パラグアイのイグアス地区からの寄贈。同社は同国などで

日系農業者による穀物生産を進めており、今回の震災を知ったイグアス日系農業協同組合が大豆を、同国日本人会連合会などが豆腐製造資金と1千万円の寄付を申し出たという。

中田社長が経営する別会社の施設「ちこり村」で行われた出発式には、豊歳直之パラグアイ駐日特命全権大使も出席し「日本人の英知と団結力で、必ず近い将来、被災地は復興するだろう。今回の支援がその一助になれば」とあいさつ。ギアリンクス関係者が豆腐を積んだ冷蔵車に乗り込み、被災地へと向かった。豆腐の製造には、岐阜のほか、岩手、青森、埼玉、京都のメーカーが協力。パッケージには「心はひとつ」のメッセージが書かれている。同支援は、豆腐100万丁に達するまで続けられる。

（平田成範）